生活手段の資本主義的形態とその廃棄角	価値法則の国際的展開についての一考察岩	近代経済学における科学性・客観性論浜	——玉野井芳郎氏の所説について—— 地域主義に対する批判(下)杉	平均利潤率の形成と需要供給の関係について小檜山	老舗外与株式会社の歴史と経営哲学足	社会政策および中間層政策の展開闫川三月前期のプロイセンにおける「社会問題」と	――玉野井芳郎氏の所説について――	「地域主義」に対する批判(上)杉	景気循環の形態に関する比較動学的分析北	ヰおよび国家との関連──	公信用の展開小	論説	立命館経済学第二十八巻総目次(昭
田	田	崎	野	悄山	立	本		野	野	4	牧		和五
修	勝	Œ	圀	政	政	和		圀	Œ.		聖		(昭和五四年度)
	雄	規	明	克	男	良		明	-		徳		皮
三・四・五・・・・・一六一(四八九)―――一九四(五二二)	三・四・五・・・・・一三六(四六四)——— 一六〇(四八八)	三・四・五・・・・・ 九〇(四一八)———一三五(四六三)	三•四•五····· 五七(三八五)——— 八九(四一七)	三・四・五・・・・・四一(三六九)——— 五六(三八四)	三・四・丘・・・・・ 三(三三一)――― 四〇(三六八)	二 三一(一九九)——— 七二(二四0)		二 一(一六九)——— 三()(一九八)	1 128( 128)——— 并28( 兵28)	;			

一七九 (八三九)

産業構造研究の基礎視角………………

鎌倉孝夫氏の批判に応える――

立命館経済学(第二十八巻・第六号)

:: 单 賀 野

光 正

三・四・五……二六二(五九〇)———二八五(六一三)

三•四•五····· | 五(五三)—

**- | ( ) ( ) ( )** 

靖 秀

— 14(公45)

立命館経済学
(第二十八巻・
第六号)
八〇〇元
(八四〇)

J・R・マカロック著『石炭税制改革論』(下)若 林 洋 夫	翻訳	志布志湾漁業経済分析資料(その三)杉 野 圀 明	現代アメリカ鉄鋼業の生産構造坂 本 和 一	資 料	──スキデルスキー編『ケインズ時代の終焉』をめぐって── 対野快晴・松川周二ケインズ経済学の意義と限界(Ⅱ) 山田 獺・北野正一	――スキデルスキー編『ケインズ時代の終焉』をめぐって――ケイン ズ経済学の意義と限界(I)山田 彌・北野正一	研究ノート	『資本論』における流通必要金量概念と資本破壊竹 味 能 成	――造船業における市場構造の変化と設備過剰――構造不況と産業組織山 本 幹 夫	価格体系と価値法則佐々木 秀 太	研究	販売促進政策と企業成長松 川 周 二	立命館経済学(第二十八巻・第六号)
1180(180)——1六八(1六八)		六1三1(七八一)——1六八八三〇)	七七( 七七) 三九( 三九)		二 九三(二六1)——— 五六(三)四)	1		六101(共1)——1110(共0)	六 四八(七0八)——100(七六0)	门 均((101)—— 丸((1大0)		六・・・・・・ 一八(六七八)――― 四七(七〇七)	一八〇(八四〇)

――EMS発足にあたって―― 昭和五四年度第一回研究会「欧州経済通貨同盟の発展」……清

水

貞

俊

共同研究室

立命館経済学(第二十八巻・第六号)	――フランスにおける労働法制との比較において――昭和五四年度第十回研究会「現代資本主義の労働関係」三	20~30年代のケインズの著作を中心に における政策論の位置」松昭和五四年度第九回研究会「ケインズ経済学	「財政危機と資金運用部資金」浅	流通必要金量概念と資本破壊」竹昭和五四年度第八回研究会『『資本論』における	――拙著『現代社会主義経済論』の一論点をめぐって――現代ソ連社会主義発展区分」小昭和五四年度第七回研究会「社会主義社会と	現実資本の法則的展開」小昭和五四年度第六回研究会「現代の貨幣理論と	――鎌倉孝夫氏の批判にこたえて―― 昭和五四年度第五回研究会「天皇制国家論について」後	鉄鋼業の諸行動の特徴について」:三富紀敬昭和五四年度第四回研究会「最近の日本 北野正一	――付、フランクフルト大学留学記――「西ドイツにおける財政危機論の一端」坂昭和五四年度第三回研究会	──一九三○年代以降を中心に── 「合衆国プランテーションの構造変化」藤昭和五四年度第二回研究会
	好	Ш	田	味	野	牧	藤	佐	野	岡
	正	周	和	能	_	聖		々木秀太	光	
	巳		史	成	郎	徳	靖	太	俊	惇
一八一(八四一)	六[	六 1四(八三四)———1	六 七四(八三四)———	六 七四(八三四)———	大 [七三(八三三)———]	六 [七] (八三] ) ――― [七司(八三司)	六1七1 (八三1)——1七1 (八三1)	ボ······1中1(大計1)——-1中1(大計1)	۲۰۰۰۰۰ [۴] (۱۵۲)—— ا	二   五七(三三五)———
	一宝(八宝五)	14四(八三四)	岩田(大三田)	1七四(六三四)	- 1 七三(八三三)	当(公里)	七(八三)	七(公三)	141(公三1)	(20)(三元)

## 立命館経済学(第二十八巻・第六号)

立命館経済学著者別目録	<ul><li>(新制)経済学部三十周年年譜</li></ul>	本年度会員業績	立命館経済学(第二十八巻・第六号)
三•四•五·····二九一(六一九)———三三二(六六〇)	三•四•五······1八六(六1四)———二九0(六1八)	六一宝(八宝)——一六(八三八)	一八二(八四二)